



FUKUOKA PREFECTURAL
UNIVERSITY

福岡県立大学 附属研究所

2020. 10

ヘルスプロモーション 実践研究センター

事業報告書

2019（令和元）年度

福岡県立大学 附属研究所

目次

I. 2018年度ヘルスプロモーション実践研究センター事業一覧	1
II. 地域支援事業部門	2
1. 性の健康に関する事業	2
2. エンド・オブ・ライフケア、多職種協働ケアカフェ	4
III. 教育研修事業部門	7
1. 看護職へのリカレント教育（母乳育児）	7
2. 保健師リカレント教育推進事業	8

I. 2018年度ヘルスプロモーション実践研究センター事業一覧

地域支援事業部門

	事業名	実施責任者	実施回数
1	性の健康に関する事業（布ナプキン作成、マンスリーピクス、月経なんでも相談、性教育）	古田祐子	4回
2	エンド・オブ・ライフケア多職種協働ケアカフェ	尾形由起子	3回

教育研修事業部門

	事業名	実施責任者	実施回数
1	看護職へのリカレント教育（母乳育児）	鳥越郁代	2回
2	保健師リカレント教育推進事業	山下清香	21回

Ⅱ. 地域支援事業部門

1. 性の健康に関する事業

①事業組織

事業代表者：古田 祐子（看護学部 准教授）

事業分担者：石村美由紀（看護学部 准教授）

佐藤 繭子（看護学部 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2019年度）

項目：附属研究所費「性の健康に関する事業」145,000円

参加者材料費一部負担：布ナプキンワークショップ（学内）500円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

性に関する諸問題をとおして女性が自らの健康に関心を持ち、月経痛の軽減、妊娠前のからだづくり（プレコンセプション）、十代の望まない妊娠や性感染症を予防するなど、特に女性の性の健康を向上させることを目的とする。

⑤事業の内容

当該事業は、主に相談事業、セミナー事業、出前講義の3つの事業を柱としている。

【相談事業】

「月経なんでも相談」では、月経不順、月経随伴症状、おりものの異常、婦人科疾患、乳がんなど、健康問題に関連した個別相談が12件あった。

【セミナー事業・出前講座】

セミナーは「マンスリービクス」を1回、「女性の心とからだの健康セミナー」を1回、「布ナプキンワークショップ」を2回開催した。

「マンスリービクス」は、例年複数回開催していたが、実習室使用日の確保が困難な状況になったため、平成26年度より年1回実施している。2019年6月25日にヘルスプロモーション実践研究センターで開催し、6名が参加した。当初6月26日を開催日としてインフォメーションしていたが、実習との兼ね合いで急遽日程を変更した。参加者は例年に比べ少なかったが、月経に関連するツボ押しやアロマなどを活用したセルフケアを学び、参加者には好評を得た。オリジナルパンフレット「しっとお？月経」を無償配布した。

「女性の心とからだの健康セミナー」（写真1）は今年度開設した講座である。2019年7月29日に学内で開催した。月経に不安のある学生や健康に関心のある学生15名が参加した。



写真 1

「布ナプキンワークショップ」は7月31日と2020年2月18日の2回開催した。場所はヘルスプロモーション実践研究センターセミナー室である。ポスターによる広報活動を行い、メールで受付けをした。参加者は、7月が7名、3月が5名であった（写真2）。セミナーは講義30分と演習90分で構成し、受講者は1人5～20枚の布ナプキンを作成した。前年度に継続して参加している人もおり、講座開催を楽しみにしておられた。はじめて使用するロックミシンに感動し、「生理が楽しみ」という感想もあった。参加の満足度では参加者全員が満足と回答していた。

これまで月経について話す機会がなかったこともあり、初経を迎えた場所や家族の対応など、貴重な経験を共有することができた。



写真 2 布ナプキンワークショップ



「不妊に悩む女性とのおしゃべり会」は参加希望者がなかったため、開催を中止した。

右写真は27年度に配布した自作パンフレットの表紙である。

出前講義は中学生に対する性教育を3講演実施した。感想文によると好評であったことが窺えた。

2. エンド・オブ・ライフケア、多職種協働ケアカフェ

①事業組織

事業代表者：尾形由起子（看護学部 教授）

事業分担者：猪狩 崇（看護学部 助教）

事業分担者：中村美穂子（看護学部 助手）

②事業資金

福岡県立大学予算（2019年度）

項目：附属研究所費 ヘルスプロモーション実践研究センター 215,000円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業概要

在院日数が短縮するなか、在宅医療を推進させるために、地域住民自身が終末期まで在宅療養を迎える必要があることを伝える必要である。地域住民に対し在宅療養の具体的な方法を伝え、在宅医療に対する意識を向上させることを目的としている。その参加者の要望のなかに、在宅療養の際の具体的なケアの方法を身につけたいとあり、令和元年度も「意思決定支援」をキーワードに、多職種との連携、看護職同士の連携そして地域住民との連携を目的に、在宅医療を受ける地域住民のQOL（生活の質）が向上するための在宅医療・介護に関する連携に関する内容で研修を行った。

⑤事業の内容

①目的：地域ケアに関わる人達の意見交換をする場（ケアカフェ）を作ることで、より、医療・介護関係者の顔の見える関係づくり及び地域課題の共有、解決を図る。

②対象者：医師、歯科医師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、介護支援専門員、栄養士、ヘルパーなど

会場：福岡県立大学 看護学部 地域在宅看護実習室

③年間4回計画したが第4回は中止となり3回の開催であった。参加のべ171人であった（以下の表参照）。

・令和元年度も昨年につき、「意思決定支援」をテーマに地域ケアに関わる人達と地域住民と共にグループ討論や意見交換をする場を作り、顔の見える関係を築き、連携構築及び地域課題の共有、解決を図る。を目的にケア・カフェたがわを企画実施した。

住民参加状況と参加状況は、

第3回目の参加人数は、50名で、市民参加は7名であった。ケア・カフェたがわ1回目から3回目までの述べ参加数は、171人、市民数は28人となる。

重複数を除き専門職164人（市民25人）となる。（市民の内訳は、民生委員3 区長9 副区長1人 一般市民12人）

通算回数 3 回

第 1 回

テ ー マ : 「人生会議について」

パネラー : 田川医師会副会長岡部浩司氏
福岡県立大学看護学部長 尾形由起子

会 場 : 福岡県立大学 地域在宅看護実習室

日 時 : 令和元 6 月 19 日 (水) 18:30~20:30

参加者数 : 54 人 (民生委員など住民 11 名)

第 2 回

テ ー マ : 「在宅医療介護を経験されたご家族が実際に語る～看取りとなった場所
は病院となった事例」

発 表 者 : ゆらら訪問看護ステーション 梶原ちひろ氏
入口紀子氏

会 場 : 福岡県立大学 地域在宅看護実習室

日 時 : 令和元年 9 月 20 日 (金) 18:30~20:30

参加者数 : 67 人 (民生委員住民 10 名)

第 3 回

テ ー マ : 「認知症、家族そして地域」

講 師 : 社会医療法人親仁会みさき病院 院長 田中清貴氏

会 場 : 福岡県立大学 地域在宅看護実習室

日 時 : 令和元年 12 月 18 日 (水) 18:30~20:30

参加者数 : 50 人 (民生委員など住民 7 名)

第 4 回 (中止)

テ ー マ : 「地域事例で学ぶ臨床倫理 (カード方式) ~多職種と住民を結ぶ共同意思
決定~」

講 師 : 琉球大学付属病院 地域医療部 金城 隆展氏

会場 (予定) : 福岡県立大学 地域在宅看護実習室

日時 (予定) : 令和 2 年 3 月 15 日 (日) 9:30~12:30

新型コロナウイルスの感染拡大防止の為中止

令和元年度述べ回数 3 回

令和元年度述べ数 171 人

R 元年度	1 回目 (市民数)	2 回目 (市民数)	3 回目 (市民数)	4 回目	計
参加総数	54 人 (11 人)	67 人 (10 人)	50 人 (7 人)	中止	171 人 (28 人)

	1回目	2回目	3回目
前回参加者重複市民		1人 (10%)	7人 (28.5%)
前回参加者重複全体		12人 (18%)	14人 (28%)

* 第1回～3回
皆勤参加者数 10名

「市民を交えて意見交換」をコンセプトに開催を呼びかけしているが、毎回15%前後の割合での参加率となっている。これは聴き合う、価値観を共有しあい顔の見える関係づくり場とし14職種と市民が集いあう場として貴重である。職種が異なるだけでも役割や理解が異なるため、顔を合わせ職種間や市民とつながりを大切にすることは大変重要であると考え。区長や民生委員など地域の活動や悩みを共有できたのも貴重である。

今後の地域包括ケアシステムの土壌として、そこからシステムづくりと育成につながるような地域課題をテーマに、医療介護福祉の質の向上とともに地域のつながりの強化に繋げていきたい。

Ⅲ. 教育研修事業部門

1. 看護職へのリカレント教育（母乳育児）

①事業組織

事業代表者：鳥越 郁代（看護学部 教授）

事業分担者：佐藤 繭子（看護学部 臨床看護学系女性看護学/助産学 助教）

②事業資金

福岡県立大学予算（2019年度）

項目：附属研究所費 「看護職へのリカレント教育」 387,000円

③主催団体・共催団体

主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

共催：母乳育児支援を学ぶ九州教室

④事業の目的

母親への母乳育児支援については、女性看護学領域だけでなく、授乳中の母親がいる可能性のある成人・小児看護学領域など多岐にわたり関連してくる。さらに産婦人科病棟が混合病棟化し、助産師だけでなく、看護師も NICU 勤務者だけでなく母乳育児支援を実際に行う場面がすでに出てきている。だが、就職後の母乳育児支援に関する学習機会は少なく、医療従事者は養成機関で学んだ内容だけで母乳育児支援を実施している現状がある。この事業は医療従事者に対し適切な母乳育児支援を継続的に実践できるような知識の提供の場とする。

⑤事業の内容

セミナー1

日時：令和元年8月4日（日）10時00分～17時30分

場所：博多南地域交流センター・さざんびあ博多 多目的ホール

講演内容

母と子の健康について母乳育児から見つめてみよう：戸田千（産婦人科医師・IBCLC）

「切れ目のない母乳育児支援」～多職種との連携～：菅原光子（助産師・IBCLC）

授乳中の乳腺炎：戸田千（産婦人科医師・IBCLC）

直接授乳のアセスメント能力を高めよう～授乳観察用紙を読み解く～：菅原光子（助産師・IBCLC）

セミナー2

日時：令和2年2月2日（日）10時50分～16時40分

場所：九州大学医学部病院キャンパス コラボステーション I 2階 視聴覚室

講義内容

産後ケア事業について～母乳育児支援の視点も含めて～渡邊和香（助産師・IBCLC）

高年初産のお母さんへの援助～ガイドラインをふまえて～渡邊和香（助産師・IBCLC）

神経筋骨格系の機能解剖学から捉える母乳育児支援：山口康太（カイロプラクター・IBCLC）

多くの医療従事者に参加いただき、良い交流の場にもなっていた。

2. 保健師リカレント教育推進事業

①事業組織

- 事業代表者：尾形由起子（看護学部 教授）
事業分担者：山下 清香（看護学部 准教授）
：小野 順子（看護学部 講師）
：手島 聖子（看護学部 助教）
：中村美穂子（看護学部 助手）

②事業資金

- 福岡県立大学予算（2019年度）
項目：附属研究所費 46,000円

③主催団体・共催団体

- 主催：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

保健師は専門職として社会情勢の変化に応じて新たな知識と技術を獲得し、実践を通じた技術習得が求められている。しかし、行政組織においては保健師の分散配置によって指導体制構築の困難な状況があり、OJTに加えoff-JTによる縦断的、横断的学習の場の提供が求められている。保健師のキャリアラダーでは、新任期は、個別支援や地区診断に基づく地区管理等の能力を醸成し、保健師としての基本的支援技術や実践能力を獲得する時期とされている。そこで、卒業生及び筑豊・京築地域の新任期保健師が母子の対人援助技術を学ぶ場としてスキルアップ研修会を開催する。この研修会は、母子保健分野における乳幼児健康診査を通して個別支援に必要な技術の向上を目指すものである。

⑤事業の内容

【第6回 保健師スキルアップ研修会】

- ・日 時 令和元年7月27日（土）9：30～11：30
- ・参加者 30名（保健師24名、内卒業生10名、教員6名）
- ・場 所 福岡県立大学
- ・テーマ 1歳6か月児健康審査のポイント 第3弾
～健診後のフォローについて考えよう～
- ・内 容 1. グループディスカッション
 - ・1歳6か月健診後のフォローでの困りごと
 - ・母親や児の困りごとに対する保健師の対応2. 発表
- 3. 講義「1歳6ヶ月児の健診後のフォローについて」
直方市教育委員会 こども育成課 母子保健係長香月眞美先生
- ・行政における乳幼児健康診査は、乳幼児の健全な発達発育と疾病の早期発見を目的に実施されている。幼児期は身体機能に加え、言語や社会性の発達が著しい時期であり1歳6か月児は発達障がいスクリーニングの機会として重要な時期である。また、発達障がい児を養育する母親は児の障害に起因する行動特性への対

応が必要な状況が多くなり育児不安や負担感は大きく母子ともに支援が必要となる。一方で障害への気づきから療育までの過程では児のみならず母親に対する支援の難しさを感じている保健師も非常に多かった。また、児の発達障害によって生じる発達のアンバランスさや特性を見極めフォローの必要性や時期、方法を見極めるアセスメント力の知識不足を感じている保健師も多かった。具体的な経験に基づく困りごとを共有し、発達障害の可能性のある児と養育者を支援するために必要な知識と技術について講師からのアドバイスをもらうことができた。研修会参加後のアンケートでは研修会が今後の業務に役に立つかを尋ねたところ参加者全員からの回答があり、「非常に役に立つ」92%、「役に立つ」8%と回答していた。これまでに、4か月健診、1歳6か月健診における保健師の技術や支援方法を学ぶ研修会を実施しており、今後は乳幼児期最後の健診となる3歳児健診での技術や支援方法を学ぶ研修会を実施し、乳幼児期の母子を継続して支援できる知識と技術を学ぶ研修会を実施する予定である。

【児童虐待防止学習会及び啓発活動】

- ・学 習 会：5月16日（木）、7月4日（木）、7月18日（木）、10月3日（木）、10月10日（木）、10月29日（火）、11月7日（木）、11月14日（木）、12月12日（木） 18：00～19：00
- ・啓発活動：11月9日（土）9：30～16：00
- ・参 加 者：看護学部1年生及び2年生延べ88名
- ・ゲ ス ト：田川市保健師、福智町社会福祉協議会社会福祉士、直方市保健師
- ・場 所：福岡県立大学
- ・テ ー マ：児童虐待の現状と防止の取り組み
- ・内 容：学習会：教員及びゲストによるミニ講義とディスカッション
啓発活動：秋興祭にてポスター掲示・チラシ配布による啓発活動
- ・看護学部の学生を対象に、児童虐待防止に携わる保健師と障害児の学童保育に携わる社会福祉士を招いて児童虐待防止についての学習会を実施した。学生が学習内容を基にポスター及びチラシを作成し、秋興祭で来校者に啓発活動を行った。

①事業組織

事業代表者：山下 清香（看護学部 准教授）
事業分担者：尾形由起子（看護学部 教授）
：小野 順子（看護学部 講師）
：手島 聖子（看護学部 助教）
：檜橋 明子（看護学部 助教）
：中村美穂子（看護学部 助手）

②事業資金

福岡県立大学予算（2018年度）
項目：附属研究所費 46,000円

③主催団体・共催団体

共催：福岡県立大学 附属研究所ヘルスプロモーション実践研究センター

④事業の目的

地域住民の感染症防止対策には、住民一人ひとりの意識や行動の変容と健康づくりを推進する地域づくりが必要である。そのためには個人や単一の組織・機関の努力に止まらず、地域ぐるみでスキルアップに取り組む教育研修時事業が鍵となる。本事業で、学生と住民、関係職種・関係機関が協働で感染症防止スキルアップ研修を通じ、地域住民のスキルアップを推進することを目的とする。また、教育研修における効果的な方法について検討する。

⑤事業の内容

- ・地域住民の感染症予防スキルアップ研修会（計9回実施）

日時：5月17日（木）、6月14日（木）、7月5日（木）、7月12日（木）、
10月4日（木）、10月30日（火）、11月1日（木）、12月15日（土）、
1月9日（水）

延べ参加者 106名

福岡県立大学 ヘルスプロモーション実践研究センター運営部会 部会員

石田 智恵美（ヘルスプロモーション実践研究センター長 編集委員長 教授）
杉野 浩幸（編集委員 看護学部 准教授）
吉田 静（看護学部 講師）
猪狩 崇（看護学部 助教）
宮崎 千尋（看護学部 助教）
吉田 麻美（看護学部 助手）

福岡県立大学 附属研究所

ヘルスプロモーション実践研究センター事業報告書 2019年（令和元）年度

2020年8月31日 発行

編集・発行：福岡県立大学 附属研究所 ヘルスプロモーション実践研究センター
〒825-8585 福岡県田川市伊田 4395
Tel:0947-42-2118 Fax:0947-42-6171
<http://www.fukuoka-pu.ac.jp/research/>
